

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1190400398		
法人名	特定非営利法人福祉ネットワーク・エヌツー		
事業所名	グループホームふるさとの家川越		
所在地	埼玉県川越市古谷上2706-1		
自己評価作成日	令和4年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 埼玉県介護支援専門員協会
所在地	埼玉県さいたま市浦和区仲町2-13-8 ほまれ会館3階
訪問調査日	令和4年3月22日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

目の前に広がる豊かな自然と、中庭では畑で季節の野菜作りや草花などを住居者と一緒に育てています。目の前の特別支援学校の文化祭に参加されたり、古谷小学校の凧揚げ大会に参加され、オレンジカフェの参加やボランティアの積極的な受け入れを行い地域に密着したサービス・施設運営を心がけております。施設の理念委もある、利用者様の主体的な介護意を行い、円滑な共同生活を目指し、入居者様の方々の思いを尊重し、日々の関わりを大事にし、ご家族様も交えた取り組み・ケアを大事にし、親しみのある家庭的でホッとするような安心感のある施設を目指し、心がけております。また職員間の連携を大事にし、情報の共有に務めております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設して4年が経過し重介護を必要とする入居者も増えてきました。令和3年4月に施設長が交代し、同年12月市の実地指導を受けた。帳票やマニュアル、業務内容について職員と話し合い試行錯誤しながら見直しをして、必要書類などの効率化が図れるよう、また、書類作成や記録の仕方などを検討し事務処理における職員の負担が軽減できるよう努力をしている。入居者の意向を最大限尊重し寄り添いながら、職員一丸となり自立に向けた支援を心がけている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の入職時には、理念を説明し、毎朝朝礼にて、全員で唱和している。	理事長が考えた理念を施設入り口に掲げ、毎日朝礼で唱和し共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナの関係で現在行えていないが地元自治会の賛助会員として、年間行事に積極的に参加して、交流を深めている。	目の前にある特別支援学校との交流や地域のオレンジサロンなどに参加していたが、コロナ禍であり、交流が途絶えている。施設内にある畑いじりをしながら近所の住民とコミュニケーションを図っている。	コロナ禍で今まで行ってきた活動ができず、利用者も職員も地域との交流ができず、寂しい思いでしょう。コロナ感染拡大が収束し、また活動的に地域に参加できることを願っています
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの関係で現在行えていないが近くの中学校の生徒の体験学習受け入れなどその人に合わせた援助・支援をすれば認知症の方も豊かな生活が出来るということを発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナの関係で開催出来ず現在資料の配布でとどめてますが地域包括・民生委員家族の皆様方と話し合いそこの意見をサービスの向上に生かしています。	2か月に1回開催していたが、コロナ感染予防のため開催していない。関係者には、報告書、資料を送付して意見等を頂き全体会議で職員と検討しサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	多種多様に必要に応じて、市の担当者と連絡を取り、必要に応じて利用者様の様子を伝えています。	令和3年4月施設長が交代したこともあり、今までの業務内容を踏まえ、あらたに市の担当者に報告や相談しながら連携を取り協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様が受ける身体的精神的被害について理解し、身体拘束のないケアを実践し取り組んでおります。 外部からの不法侵入を避けるために施錠しているが、防犯上カギをかけていること説明し、同意を得ている。	新たにマニュアルを作成して全体会議で研修を行って周知徹底を行っている。日々の業務の中で、その都度取り上げ具体的に説明し実践で指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回勉強会を行い、人生の先輩として言葉遣いなど職員全員気を付けるとともに定期的に外部研修に職員が参加しその情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所では現在ご利用しているご利用者様はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に明示されており、契約時に家族、本人に説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に内部及び外部への相談窓口を記載している。面会時や催事の際になるべく各家族と話をして、意見を吸い上げ可能な限り運営に反映するよう努力しています。	利用者家族に毎月「お便り」を送付。アンケートを取り意見を聞くようにしている。結果を施設長、管理者、職員で話し合い検討して運営に生かせるよう努力している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング(全体会議)などでは、全参加者に一言でも発言出来る機会を設けている。また、外出や行事等は職員が主体性を持ち、企画・立案を行っている。	全体会議月1回開催。意見交換が行われているが全職員が参加していない。出席できなかった職員には、意見を聞く機会を設けている。施設長の交代によりより反映できるようになった。	職員全員が参加できていないため意見を聞く事が出来ない。会議やミーティングの機会を増やして、職員の意見を聞き反映できるよう検討することを希望します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に利用者様の担当や委員会を担当し責任感・やりがいを持って仕事に取り組むように工夫し、希望休を踏まえてシフトを作成するという融通性を持って就業環境の整備に務めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種団体の研修参加で得た知識、情報を他の職員に共有し、勉強会の開催の実施をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	年間を通じての交流」はさほど多いとは言えないが 行事を通じて職員同士の交流をはかっている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が遠慮せずに、心配ごとを言って頂ける信頼と関係の雰囲気作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お話を伺い安心していただけるような、誠実な態度を心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安楽に生活されるために、必要な事の段取りを考え相談するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場なので、共にという雰囲気があるように全体のバランスがよくなるようにと考えています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在コロナの関係でご家族様に合えないがご家族様も共に関わって頂き、本人とご家族との繋がりを大切にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域やお知り合いの方と触れ合う機会を希望があれば進んで支援します。	コロナ禍以前は近所の神社に行ったり、家族との外出なども希望があれば参加できるようにしてきたが、現在はあまりできておらず、施設長はじめ職員もとても残念に思っている。今年の初詣は人気のない時間帯に参加した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の中に入り話しかける事で孤立をなくし穏やかな関わりができるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームとしては、利用者の最後の住居として家族に説明している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に直接お聞きしたい会話は伺いし、その方の暮らしに寄り添うように努めている。	利用者と会話をしてできるだけ話を聞くように心がけている。ミーティングの回数を増やし、利用者の思いや意向などを職員間で共有しケアに活かせるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	直接お聞きしたり、皆様との会話の中から探り、把握に努めています。また、ご家族様にもお聞きするようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族や関わりの合った方々に接する機会があればお聞きしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の状況、状態をスタッフ全員が共有し話し合って計画に反映されるようにしています。またご家族にも話を聞いたり主治医の指導も取り入れています。	カンファレンスを多く持ち、ケアマネジャーやケアスタッフ、医師、看護師、薬剤師など多職種から意見を聞き、また、家族の意見や意向を確認し計画を作成している。	課題分析項目が不足気味であるため、アセスメントシートの工夫を行うことで生活課題が抽出しやすくケアマネジメントを行いやすくなる。研修の参加や施設内での勉強会などを行い、よりよいケアプランの作成が行えることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段から職員一人一人様子観察しその都度話合ってます。また、特変があり計画にそぐわなくなった場合は見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望やご家族の希望等出来るかぎり対応するように努力しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナで現在利用できてませんがボランティアをお願いしたり、地域の行事に参加したりしています。また散歩等を通じて季節の節の様子を楽しんで頂いております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療希望者には訪問歯科がありまたかかりつけ医のある方には、状況に応じて受診の送迎、同行を行っています。	協力病院が変更になり、月2回訪問診療、看護師の訪問が実施されるようになった。また、かかりつけ医についても継続して適切に支援が行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間365日緊急対応できるように特化した訪問診療との関係づくりを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはスタッフが同行し現状の説明をしまつたお見舞いに行き状態の把握しています。退院時には同行させていただき出来る限り情報を得ようとしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	家族や医師と話し合い家族の思いや意向を把握し、それにもなったケアの統一を行っている。	24時間緊急医療体制が整いオンコール出来るため職員は安心してケアできるようになった。不定期に看護師が訪問し、健康管理、処置、職員の指導も行っている。	現在、入居者の要介護度は比較的軽度の方が多いが、今後の重度化に備え、最期まで尊厳を尊重した生き方について家族も含め話していく必要がある。そのため、職員も研修など行い終末期のあり方等の理解が深まることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は職員の連携により円滑に急変対応が出来るように、緊急対応マニュアルを基に随時実践を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、各自で対応できるスキルを身に付けており、また地域との協力体制が整うよう関係作りをしています。	この地域は水害が予測される地域である。日中の避難訓練は行っている。備蓄も若干施設内には用意されている。	災害時のマニュアルの見直しや連絡網を事務所の見やすい場所に設置しておくことで職員も安心して対応できる。地域の防災アドバイザーなどを運営推進会議などに招くことで災害に対応できる力をつけることを期待する

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	状況やご本人を観察し、自尊心やプライバシーを害さないよう、また他の利用者様から害されないよう情報を漏らさないように努めています。	名前の呼び方、排泄時の声のかけ方など、利用者への言葉遣いは気を付けている。職員同士注意しあえる環境となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に聞いたり選んだり出来るように時には提案し、決めれない場合でも話かけて希望にそうように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	その日の状況・状態に合わせて全体として大きな支障が出ない範囲でその人らしい暮らしを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴日の準備でご本人様に洋服を選んで頂くなどオシャレが出来るように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ゆっくり召し上がれる環境を大事にし日々の食事で美味しく残さず食べれるように配慮しお手伝いさせて頂いております。	咀嚼や嚥下の機能は低下した方などはその方にあった食形態で提供できるよう配慮している。今はコロナ禍で外食などできないため、施設の焔で取れた野菜などを入れて彩の工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分補給量を介護記録に記入し食事が進まない場合には、医師の指示の基エンシュアを提供し対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に義歯の消毒・洗浄指導をしております。出来ない方には、職員がスポンジなどを用い磨いております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄が出来るように観察し、タイミングをはかり自力での排泄がなるべく維持出来るように支援しています。	排泄表など利用者の情報を共有できる用紙があり、職員が共有できるようにしている。できるだけトイレで自力で排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や水分補給などとしていただき自然排便が出来る環境を作っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴は週2回おこなっています。1日で全員入浴されているせいか少し職員に急ぎや焦りがありゆっくり入浴できているのかな？と感じます。	週2回月・木の午前で入浴を実施。1回、9:30から11:30分までの2時間で全員の入浴を実施。車イスの方は職員の配置体制を整え、一般浴で対応しています。	2時間で全員の入浴には無理があり事故につながる可能性もある。もう少しゆとりを持ちゆっくりと入浴が出来る様、曜日を増やし時間も調整をして、利用者本位の支援を望みます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や週間や状況に応じて身体を休めたり安眠出来るようにお昼寝、話を聞く事・身体を安楽にし必要な時は薬の服用も考えます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の基体調を把握し提示や臨時の服薬を支援し薬の内容や副作用又は変更について理解できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみや生きがいを知り 全体で時には個々に時間を取り 気持ちに張りのある生活を送れるようにしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナで難しいが希望があれば 一緒に外出しホームで難しい場合には ご家族様にお話し外出が叶うように橋渡し しています。	現在はコロナ禍であり、買い物など外出は行えなくなっている。家族との面会も予約制としているが、家族も遠慮気味で家族との外出もできない状況である。散歩は継続的に行って、身体機能低下や閉じこもらないように心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が管理出来る方には使用の見守り 出来ない方には、安心して頂けるように お預かりして、必要な時には使える事 をお話しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎ橋渡し手紙の投函まで 支援しれています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住スペースにはソファがあり ゆっくり外を眺めるスペースと中庭には 座ってお茶が飲めるスペースがあり、移動・導 線にも 工夫し内部の仕上げも温かみのある作り なっております。	共有スペースには大きな窓があり、その窓からは自分たちの畑や近所の畑、住宅などが見える。2階にもガーデニングできるスペースもある。ソファもあり、利用者同士がゆっくり会話が楽しめるよう工夫している。利用者同志が互いに居室に訪室できるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間などに好みのテーブルや椅子などを配置 し 自由に居場所作りが出来るように 専念しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで長年使用した愛用の物を 居室にて使用して頂き 心地よく過ごして頂けるように配慮しています。	使い慣れた家具や仏壇なども持ち込みもでき、レクリエーションで作成した自分の作品やご家族の写真など自由に置くことができるようになってる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を頭に置き そっと寄り添う支援を大切に 個人が持っている能力を引き出すように 支援しています。		